

## 012 歳児の保護者に向けた文字環境について

—保育園における保育の見える化を考える—

The character environment for parents of 012-year-old children

—Visualization of childcare in a nursery school—

松本和美\*, 松田聖子\*\*

Kazumi MATSUMOTO, Syoko MATSUDA

### 1. はじめに

012 歳児の保育においては、保育所保育指針に『一人一人の子どもの生育歴、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること』とある。この時期の子どもは個人差が大きく、一人一人に応じて、その子どもが今どのような状態にあり、どのように伸びようとしているのかを理解し、援助していく姿勢が求められている。保護者にとって、子どもを保育園に預けている間の子どもの様子が分かり、さらにドキュメンテーションやポートフォリオによって子どもの育ちが見えることは、保育士とのより深い共通理解を図ることができると言える。

また、保育士にとって記録を取ることは、自らの保育を振り返り、課題を意識化しながら省察することにより専門性の向上を図ることが期待される。そこで保育士に求められるのは、子どもの言葉、表情、態度、動きなどのサインを瞬時に見取り、判断して子どもと関わる力である。

今回、自分の思いをうまく言葉で表すことのできない 012 歳児クラスの子どもの育ちや、保育園生活における保護者へのメッセージはどのように伝えられているのだろうか。保育園の実践例より考察したい。

### 2. 保護者に向けた文字環境とは

本研究では、012 歳児を預かる保育園の現状から、写真と文字環境をうまく使って保護者とコミュニケーションを取っている事例について述べる。

＜保護者に向けたドキュメンテーション作成上の留意点＞

- ・日々の活動を説明するだけでなく、今の子どもの成長の姿を捉えてわかりやすい言葉で記録する。
- ・表情や動きなど写真から伝わることを丁寧に伝える。
- ・情報量が多くなりすぎないようにする。
- ・子どもを評価したり比べたりするような書き方をしない。

以上の点に留意して、ドキュメンテーションを作成した。

#### (a) 対象園

M市にあるK保育園は豊かな自然に囲まれ、季節感にあふれる保育園である。

0歳11名、1歳26名、2歳34名の計71名が在籍する。(平成31年4月1日現在)乳幼児たちは月齢と、その子一人一人の育ちによって、0歳児クラス、0・1歳児クラス、1歳児クラスが2クラス、2歳児クラスが2クラスの計6クラスで保育が行われている。

「豊かな心・元気なからだ・たくましく生きる子ども」を保育目標にしており、研究調査を行った2019年度の努力点の一つには「保育者と保護者間の信頼関係を深め、月1回の気楽にトーク『スマイル会』で保護者の子育てへの思いを理解し、共有していく。」ことが挙げられている。

#### (b) 記録期間と方法

園内の掲示物を中心に保護者に向けたものに着目し、写真による記録を行う。その写真をカテゴリー別に分類を行い考察する。

期間：2019年8月1日

#### (c) 倫理的配慮

研究協力園の園長、主任に対し、研究の目的や研究内容と方法、個人情報の保護に関して説明を行った。合わせて研究への協力はいつでも中止できること、それによる不利益は一切生じないことを説明した。その上で、データ公開の同意を得た。さらに本論文を発表するにあたり、改めて園長及び担当保育者に研究の目的と概要を説明し、発表することに抵抗を感じる、異論のある箇所がある等があれば指摘していただきたい旨を伝えた。その結果、修正を依頼された箇所はなく、論文発表の許可を得た。

#### ＜保育園の様子から＞

朝、保育園に子どもを送ってくると、玄関にあるメッセー

\*〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学短期大学部保育科

\*\*帝京平成大学 現代ライフ学部児童学科

ジボードに今日の一言が書かれていて、保護者は今日一日の保育園生活を想像しながら保育室に向かう。

保育室の入り口には、持参した子どもの衣類やタオル、その他の持ち物を整理するために、写真や絵によって分かりやすく図解してあり、それを見ながら整理する。保育園からのお知らせも掲示してあり、子どもたちの体調管理について、行事の時の持ち物などについて伝えている。連絡帳を提出する横には、今週取り組んでいる遊びの様子がドキュメンテーション記録として挙げられており、まずは自分の子どもを探す様子が見られる。保育士は保護者にドキュメンテーションを解説し、その間の子どもたちの様子を話しながら、保護者とコミュニケーションを図っている。

給食室の入り口には今日の献立が掲げてあり、食材が地元の食材を取り入れて工夫していることや、新しい料理の仕方などを確認する姿がある。

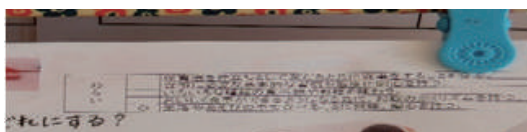
降園時のお迎えの頃には、子どもの着替えを手伝いながら今日の保育について、遊びのかけらである作品を見たり、子どもの様子を棚に置かれたドキュメンテーションを見たりしながら保育士と語り合っている。廊下には、園内研修でまとめた『保育園で読まれている絵本の年間計画』が貼られている。保護者は様々な絵本がいつ頃読まれているのかチェックしたり、面白そうな絵本を図書館で借りようとじっくりと確認したり、子どもに人気の絵本について園長に質問する人もいる。

このように、K保育園は子育てを保護者と共有していくために、保育生活を「見える化」して理解を深めるための手段として、文字環境を整えている。

以下に、保育園の様子に見られた文字環境について4つの視点から考察を試みる。

(1) ドキュメンテーション

K保育園では日々の子どもの様子をドキュメンテーションとして知らせている。



<写真1> 保育のねらい

ねらい		保育者を仲立ちとして友だちと共に食事をすることを喜ぶ。
		食事に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。
		いろいろな種類の食べ物や料理を味わう。
		おいしく食事ができるようになる為に、お腹の空くりズムを持つ。
	○	生活やあそびの中で食べることに、興味、関心を持つ。



<写真2> 2歳児クラス 7月30日  
製作遊び『氷 始めました』

「まずは氷。ペーパータオルをくしゃくしゃポイ！」  
「シロップはブルーハワイ・レモン・メロン・イチゴどれにする？」  
「完成 おいしそう ぼくメロン わたしイチゴ チューゴクゴク のんでるよ」



<写真3> 1歳児クラス 7月18日  
『プールびらき』

「みんなが楽しみにしていたプールびらき。やっとプールに入ることができました。  
曇り空で、長時間入ることはできなかったですが、冷たい水に大はしゃぎしたり、ちょっぴり怖くなったり1人ひとり、子どもたちなりに楽しむことができたようです！」

<プールあそびのおやくそく>

・走らない。 ・飛び込まない。 ・仲よくあそぶ。  
「つめたい水に少し緊張しているのかな。」  
「水あそび大好き！プール楽しいよ！」  
「つめたーい 気持ちいいね！」  
「小さなたらいに座って みんなのあそびをじっくり観察中」  
「足で水にさわるとどんな感じかな？」  
「うわぁ気持ちいい」

ねらい		身近な人と関わる心地よさを感じる。
		明るく伸び伸びと生活し、自ら体を動かすことを楽しむ。
	○	自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。
		感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。
		友だちへの興味や関心が高まり、関りを持つようとする。

**考察**

このドキュメンテーション記録用紙には活動のねらいを記入する欄があり、ここをチェックすれば、この保育活動における子どもの育ちが理解できるようになっている。(写真1)

写真2では、かき氷を作る様子が示されている。カップにティッシュを必死で詰め込む様子。慎重に筆の先まで集中しながらメロン味のかき氷(緑の絵の具)を注ぐ子ども。色づけした氷(ティッシュ)を突いて楽しむ子ども。一人一人の取り組みが異なってそれぞれが楽しむ様子を捉えている。

写真3のプール開きは、水不足でなかなかできなかったプール遊びがようやくできた喜びが記録を作った保育士の文章から分かる。まずは保護者にプールに入る際の注意事項を示している。

子どもたちの様子からがまだ、プールに入ろうかをじっくり悩む子どもが捉えられており、保育士がじっと様子を見守っていると分かる。

写真4は保育園の畑で自分たちで収穫した野菜を触って、その生長を実感する姿が見られる。

このようにドキュメンテーションで子どもの様子を知らせると、今保育を行っている意味を理解することができる。我が子がどのように園生活を送っているのかを確認すると同時に保育園の取り組みを知ってもらうことができる。K保育園ではこのドキュメンテーションの右上に活動のねらいを明記している。

我が子の様子を見つこの活動が子どもの育ちのどこに関わっているのかを知ってもらう機会となっている。



＜写真4＞ 2歳児クラス 『朝採れたて保育園の農園 きゅうり・なす』

「最近きゅうりが給食にでてくるよ。こんな形だったんだね。」  
 「大きくなったオクラ！！そーっと持ってみたよ！」  
 「大きいかぼちゃ重たいね。ツンツンさわって確かめているよ。」  
 「なすをもってにこにこ」  
 「きゅうりのイボイボも気にせず持っています！食べ物かな～？っとじーっと見えています。」  
 「食べられるものってわかっているのかな。はやく食べたいなあ。」  
 「トマトを持ってながめています！」

**(2) 生活に見える化する**

保育園では子どもが生活するため、また保育士が子ども個人の持ち物等を把握しやすくするために様々な工夫をしている。(写真5, 6, 7, 8)

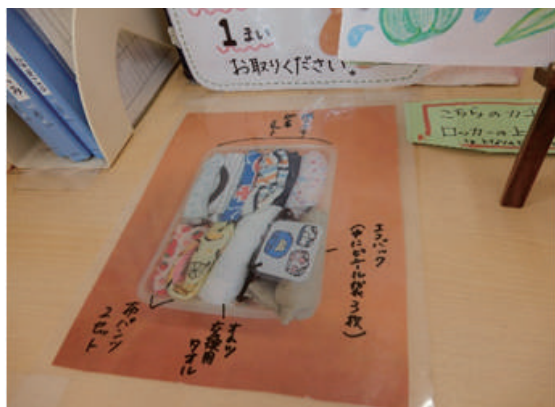


＜写真5＞ 0歳児クラス 『個人に着替えBOX』



＜写真6＞ 0歳児クラス 『食事セット (エプロン、お手拭)』

ねらい		保育者を仲立ちとして友だちと共に食事をすることを喜ぶ。
		食事に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。
		いろいろな種類の食べ物や料理を味わう。
		おいしく食事ができるようになる為、お腹の空くりズムを持つ。
	○	生活やあそびの中で食べることに、興味、関心を持つ。



<写真7> 1歳児クラス『トイレセット』

トイレ(着替え)のセットの仕方(トイレトレーニング中)

布パンツ2セット・オムツ交換用タオル・エコバック(中にビニール袋3枚)  
服の上下・肌着2セット



<写真9> 『なかよし畑情報』

畑で育てている物を、1年を通して掲示している。季節で収穫した野菜や花は張り替えられるようになっている。



<写真8> 1歳児クラス『帽子をかける』

「週の始めに帽子をかけて下さい。」



<写真10> 『保育士のおすすめ絵本』

### 考察

このような『生活の見える化』は、子どもが生活しやすくなると同時に、朝の忙しい時間内に保護者が子どもの支度を迷わず行えるように工夫されている。

保育園から保護者に伝えたいことも写真等を付け、見える化することで更に分かりやすい工夫がされていることが分かる。

### (3) 保育士からの発信

K保育園では、園内で様々な研修を行い、その成果を子どもや保護者に伝える取り組みを行っている。これらはテーマ毎に3年間ずつ続けた「食育」の研修や「絵本と遊び」の研修の成果から導き出したものを掲示している。(写真9, 10, 11, 12, 13)



<写真11> 『保育士のおすすめ絵本 拡大』



<写真12> 『絵本から広がる K 保育園のあそび 全体像』



<写真13> 『絵本から広がる K 保育園のあそび 拡大』

### 考察

写真9は、昨年度まで重点的に取り組んでいた食育の研修から、畑の成長や実りを子どもたちや保護者にも伝えていきたいと作成したものである。

写真10, 11は保育士のおすすめ絵本を表した表である。家庭でどのような絵本を読めば良いのかという保護者の疑問は様々な育児雑誌やインターネット等で“お勧め絵本”を紹介していることからも見えてくる。日頃、我が子と接している保育士が選んだ絵本を、毎日送り迎えをする保育園で月別に知ることができるというのは保護者にとって大きな喜びであろう。

「廊下のお勧め絵本を保護者が登園時や降園時に良く見るのでラミネートで補強して作り直しました。」と園長が言うように、子どもが降園時に大型積み木でなかなか遊んで帰らないのは、母親がじっくりと絵本の表を見ているからという場面がしばしば見られた。

また絵本を紹介するのみならず、『絵本から広がる K 保育園のあそび』(写真12, 13)では、絵本を使って遊びがどのように広がるのかを提示し、更には保育所保育指針における5つの領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を示し、子どものどの部分を伸ばそうとする遊びなのかを伝え、毎日保育士が取り組んでいる遊びや活動が子どもの

育ちにどのように関わっているのかを表している。保育士が研修によって保育の振り返りをしながら子どもの育ちと向き合っていることを、専門的な分析を保護者に開示することで示しているのである。

### (4) 保護者へのお知らせ

園内には様々な掲示物があるが2歳までを保育している K 保育園においては、この掲示の多くは保護者のためのものである。(写真14, 15, 16, 17)



<写真14> 1歳児クラス  
『プールの通知 表』



<写真15> 1歳児クラス  
『プールの通知 裏』



<写真16> 0歳児クラス『朝の手続き』

個人の白いカゴの中に以下の物を入れる。

- ♡おしり拭き
- ♡布オムツ…3セット  
(使用するお子さんはオムツカバーに中敷きをセットした枚数で入れて下さい。)
- ♡エコバック
- ♡ビニール袋3枚
- ♡オムツ交換用タオル…1枚
- ♡服の上下…各1着ずつ
- ♡下着…1枚 (キャミソールのご使用はご遠慮ください。)
- ♡予備のスタイ

☆個人の茶色のカゴに予備のオムツや衣類等を入れる。  
\*通園バックはたたんで茶色のカゴの1番上に置いてください。

☆バインダー、個人の白いカゴ、(エプロン、おしぼり入れのカゴは網ネットに吊るす)

保育者に渡す。

\*ひよこぐみ保育室入り口の柵の上に置いていただいてもかまいません。  
全ての持ち物に必ず氏名をご記入下さい。

8、カゴに以下の物を入れる。

\*全ての物に名前を大きく記入して下さい。

- ・服2枚
- ・ズボン2枚
- ・下着2枚 (キャミソール不可)
- ・トレーニングパンツ2枚
- ・おむつ交換用タオル1枚
- ・エコバック1つ  
\*↑中にビニール袋3枚を常備して下さい。
- ・スタイ2枚 (必要な方のみ)

9、衣類等を補充したカゴをロッカーの上に置く。  
10、ロッカーの引き出しに、衣類等の予備を補充する。  
11、通園バック・上着 (冬季等) をロッカー内に置く。  
↓  
この下に写真7→こちらのカゴは準備ができましたら、ロッカーの上に置いてください。



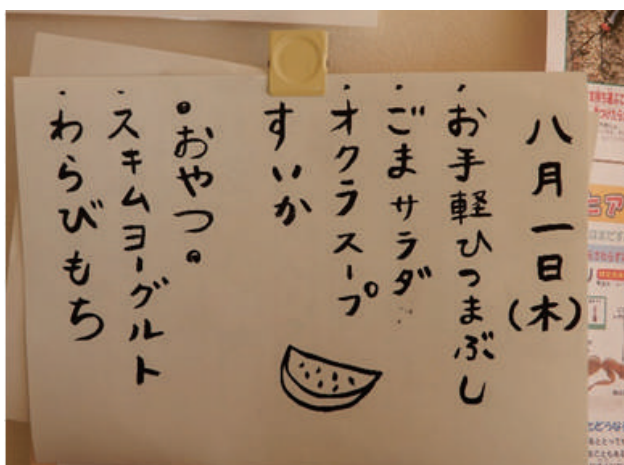
<写真17> 01歳児クラス『登園時にすること』

- 1、正面玄関でQRコードの読み取りをする。  
\*保育園を出る時でも構いません。
- 2、靴箱に (お子さんの) 靴を置く。
- 3、検温する。  
ご家庭でお済の方も登園時に、保育園で検温してください。
- 4、記録用紙に体温等を記入する。  
\*記入例を参考にしてください。
- 5、ブックスタンドにバインダーを置く。
- 6、取っ手付きのカゴを窓のフックに吊るす。
- 7、ロッカーの上の3段カゴにエプロン、タオルを入れる。



<写真18> 2歳児クラス『様々なお知らせ』

- ・冷房中のためドアを閉めて下さい。
- ・登園時の大切なお知らせ  
水あそびがある日は毎朝、東棟のデッキの芝生のところでプールに水を入れてあります。  
保育者が傍にいない場所がありますので、必ずお子様から目を離さないようお願い致します。
- ・7月おたんじょう会 の様子 ドキュメンテーション
- ・ブログ更新しています  
7月誕生会 7/30 更新 きりんぐみ  
7/23 ブログを更新しています
- ・水あそびについて  
毎日、水あそびの準備・検温・○か×のチェックを忘れずをお願いします。  
\*天候や行事により、水あそびを実施しない日もあります。



<写真19> 給食のメニュー

### 考察

写真14, 15はプール遊びを行ったかどうかを保護者に伝える表示である。写真16, 17は個人の持ち物をどのように整理するかを伝えている。保育園は登降園時間が様々であり、その時間には個人的に伝えたいことが多くある。全体に伝えたいこと（プールに入ったかどうか、荷物の整理の仕方など）はこのように表示することで伝え忘れを防ぐことができる。色を付けたり、注意事項は赤ペンで書くなど、文字情報も見える化して読みやすくしている。

写真18はその時期にタイムリーで伝えたいことを掲示している。その場で必要な情報を与えていくのは大切なことである。

写真19は給食に関するお知らせである。給食のメニューはお品書きのように書かれているが、保育士が順番で書いており、個性が出ていておもしろいと園長が話していた。保護者も「今日ほどの保育士が書いたのだろう」と期待を持っている。同時に写真9では畑情報を掲示し、写真4のように保育園の畑の様子をドキュメンテーションとして記録して、畑になっている野菜を保護者に伝えていくことも行っている。家庭では今まで調理しなかった野菜を使うきっかけにもなるだろう。

## 3. まとめ

### (1) 保育士の子ども理解への意識化

ドキュメンテーションを書いたり、生活の見える化を図ったり、保育士から保護者へ発信したり伝えたりすることは、保育士が012歳児の、まだうまく自分の思いを言葉にできない一人一人の子どもの思いを汲み取って代弁したり解説する役目だと考える。そこには単に毎日の子どもたちの様子を伝える伝達手段としてのドキュメンテーションやお知らせではなく、そこに子どもの育ちを含めた専門的な理解が必要なのである。

### (2) 保護者と対話することを大切に

保護者は子どもを保育所に連れてくると、着替えの整理をしたり、じっくりとドキュメンテーションを見たりして時間をかけて保育の準備を行う。そこに、保育士がドキュ

メンテーションなどを介して保護者とコミュニケーションを取る。一人一人の子どもの成長発達を保育士がしっかりと把握していることを保護者に伝える。保護者は日々の自分の子どもの成長を確認し、家庭での出来事を保育士と話するなど、これらの時間が012歳児の子どもたちの育ちを共有するための貴重な時間だと言えるのではないだろうか。

### (3) 保育士同士の保育に対する理解の機会

他クラスの掲示にも興味を持ち、互いに日頃の保育についての共通理解を持つ。また、話し合いや研修などの機会を持ち、保育観を共有し、保育所全体の保育方針や保育計画を確認してお互いの保育の専門性を高める手立てとなることを期待する。

### <参考文献>

- ・入江礼子・小原俊郎『子ども理解の理論及び方法 ドキュメンテーション（記録）を活用した保育』（株）萌文書林 2019
- ・『子ども学第7号2019』（株）萌文書林 2019
- ・森真理『子どもの育ちを共有できるアルバムポートフォリオ入門』（株）小学館 2016